

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ASAHIKAWA SCHOOL FOR THE BLIND.

Committed
to the SDGs



SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

旭川盲学校は今年度、創立100周年を迎えます。この歴史と伝統のある旭川盲学校を、次の100年に向けて持続可能で子どもたちにとっても教職員にとっても魅力ある学校とするため、旭川盲学校版SDGsを作成し、学校経営方針に示した目指す学校像達成のための17のゴールを示しました。教職員一人一人がこの17のゴールを意識し、持続可能な魅力ある学校づくりを目指していききたいと思います。

17のゴールを達成するために教職員みんなで作ったの85のターゲット

※網掛けは今年度新たに作成されたターゲットです。

1 限りある予算を大切に使う



1.1	紙を大事に使用する。
1.2	印刷する時に裏紙を使ったり個人情報以外は裏紙に回したりする。
1.3	ペーパーレスや使えるものの再利用を心がける。
1.4	使用していない部屋や電化製品の通電を止める。また、紙などの消耗品の消費を抑える。

2 残食を減らそう



2.1	子どもと一緒に、給食を残さず食べるよう心がける。
2.2	好き嫌いせず給食を完食するよう指導する。
2.3	好き嫌いしないでしっかり食べる。
2.4	食育のためにも、教師が食の素晴らしさを日頃から子どもたちに伝える。
2.5	給食を残さず食べる。

3 みんなが健康に働ける環境を



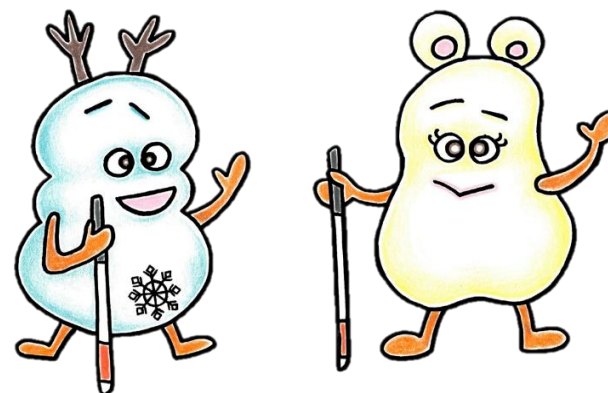
3.1	お昼の放送でみなさんに健康な食生活について発信する。
3.2	健康管理・コロナ対策・働きやすい職場環境に努める。
3.3	みんなで支え合えあいいろいろな話をしたり、聞いたり気軽に話し合える環境をつくる。



4.1	視覚障害領域の免許の取得を呼びかけ免許の取得率の向上を図る。
4.2	インプットとアウトプットの比率を意識していく。今年はアウトプットを多くすることで考え方の充実を図る。
4.3	情報のアンテナを高くはり研修会等に積極的に参加をし、自分の得た知識や経験等を他の人へ伝えたり、考え方を共有したりすることを心がける。
4.4	日頃から点字に触れるなど、視覚障害について学ぶ。
4.5	教職員が主体的に研修できる環境設定を行う。



5.1	相手の考えを丁寧に聞く、相手の考えをまずは受け入れる。
5.2	職員個々が、得手不得手を認め合い、協力して仕事を分担する。
5.3	色々な人はいてみんな良いんだということを常に色々な場で話しをしていく。
5.4	職員同士が、忌憚のない意見を言い合える環境作りをする。
5.5	子どもたちや職員それぞれの個性や考え方を尊重するよう努める。

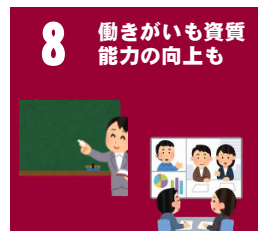




6.1	教室を片付けて、物を整理する。
6.2	校舎、備品等の老朽化による事故発生防止のための安全点検、校内巡視、保健指導、物品の新調を行う。
6.3	安心安全な環境で活動に取り組めるよう、有用な教具や便利グッズなどを調査・購入して、周知する。
6.4	援助依頼など、幼児児童生徒自らが、安心安全な環境作りができるよう必要な力を身に付けさせる。
6.5	使用していない物が置かれている特別教室の整理整頓や使用頻度の少ない教室の片付けや水回りの清掃など子ども達が安全に過ごせる環境整備を行う。
6.6	壊れている物品や装備の修繕や修理依頼など子ども達が安全に過ごせる環境整備を行う。
6.7	環境を衛生的に保つ。



7.1	使っていない教室や部屋の電気を消す。
7.2	必要のない電気は常に消灯する。子どもたちや非常勤職員にも節電を呼びかける。
7.3	こまめな消灯を行い、節電を心掛ける。
7.4	職員間で声を掛け合い、電気の消し忘れなどをなくす。また子供達にも、節電を意識できるような指導を行う。
7.5	節電を心掛る。職員と子どもたちと共通認識で取り組む。
7.6	必要のない電気は常に消灯する。資源を無駄遣いしない。
7.7	使用していない廊下の電気を消すなど、電気の節約に取り組む。



8.1	すぐに業務にいかせるような、実践的な研修を企画する。
8.2	研修を受け、その成果を学習の場で発揮できるようにする。
8.3	仕事のやりがいや働きがいを改めて考え、何を大事にするかをしっかり考えて、業務に取り組んでいく。
8.4	担当業務のレベルアップに向けて指導・助言を行う。
8.5	専門性の向上に必要な実践的な研修の場の提供と、個々人が必要に応じて研修できる資料や情報の提供を行う。



9.1	iPad等のICT機器を活用した学習を楽しく取り組んでみる。
9.2	各教職員が日常的にiPadやChromebookを活用し、ICT機器利活用の意欲を高める。
9.3	Chromebookを利用して、なるべくペーパレスな業務を心がける。
9.4	全職員のClassroomやchatグループなどを作り、業務の軽減を図る。
9.5	舎生が自分自身で成長を感じとれるように、またシフト制の勤務の中で人が変わっても、共通した指導が行えるようにICTを活用した取組を行う。
9.6	授業でiPadを使用し説明したり、調べ学習など生徒も活用する場面を設定したりする。



10.1	みんなが自分の思っていることを自由に発言できるような職場環境づくりを行っていく。
10.2	自由に発言できる雰囲気作りをする。



11.1	業務がたくさんあるので、必要なものとそうでないものを改めて考えていく。
11.2	働き方改革を心がけ、仕事の取捨選択を行うようにする。
11.3	相手への経緯や尊重する気持ちをもち異なる意見や考え方に耳を傾けるようにする。
11.4	子どもたちにとってのより良い学びの場作りにつながるとために、私たち大人が人としてより良い人間関係を大切にしていく。
11.5	何でも話しやすい職場の雰囲気作りと職員室等の環境整備、お互いを信頼し常に尊重した業務の推進に努める。
11.6	教職員間の日々のコミュニケーションを大切にする。



12.1	文献などを引用する際には出典を明らかにする。
12.2	イラストなどを使うときは著作権を考えて使うようにする。
12.3	通信や文書などを作るときには著作権を考えて作るようにする。



13.1	クラウドの活用など社会の変化に対応した働き方を考える。
13.2	生成AIを業務に有効的に活用できる方法を検討する。



14.1	挨拶・返事・お礼の言葉を笑顔で伝える。
14.2	「特別の教科 道徳」の授業だけではなく、学校全体の教育活動を通して、子どもたちの豊かな心を育てていく。
14.3	基本的な態度を教師が示し、子どもたちの豊かな心を育てていく。
14.4	動の活動を静の活動をバランスよく取り入れて、健やかに過ごせる環境を整える。
14.5	安心できる関わりに心掛ける。
14.6	私自身が見本となるように、子ども達と話す時に笑顔を絶やさないようにし、子ども達の笑顔を引き出していく。
14.7	日頃から様々な分野の話をして、子ども達の興味関心を広げ、豊かな心を育ててく。
14.8	子どもはもちろん、保護者にもしっかりと寄り添い、将来への見通しが少しでももてるように支援していく。
14.9	相手に配慮したやりとりや接し方を楽しみながら学ぶ活動を工夫する。
14.1	子供たちをたくさん評価し、自己肯定感を育むことができるよう支援する。





15.1	年休を取得するなどして、心身ともにリフレッシュする。
15.2	誰もが仕事に追われず、ゆとりをもって働けるよう、まずは前例踏襲の学部行事や教育活動を見直す。
15.3	困った時に気軽に話しあえる関係を築いていけるようコミュニケーションを取る。
15.4	周囲の様子に気を配りながら困っている時には変化に気付けるよう心掛ける。
15.5	心身ともに健康な身体づくりを目指し、何事にも楽しんで取り組んでいく。
15.6	業務の見直し、話合える関わりに心掛ける。
15.7	お互いに声をかけ合い、困りごとをひとりで抱え込まない職場環境にしていく。
15.8	指導内容や方法、成果など一緒に考えたり共感しあったりできるよう、学部や学校全体で情報発信し共有する。
15.9	安心して相談できるような雰囲気醸成を図るとともに、お互いに尊重しあえるよう言動を丁寧にする。
15.10	教職員間の日々のコミュニケーションを大切にする。
15.11	全教職員が心身ともにより良い職場づくりに努める。



16.1	学校の業務全体を見渡し、ムリ・ムダ・ムラが発生しないよう調整していく。
16.2	周りの教職員の業務を見て、手伝うことができそうなことは手伝うよう声をかけるようにする。



17.1	教職員同士が相手を思いやり、相手意識をもって接することのできるような職場環境をつくり持続可能な学校となるようにしていく
17.2	日々の連携を重視し、小さいことでも情報を共有する。

持続可能な学校づくりを進め
魅力あふれ子ども・保護者・地域から選ばれる学校を目指していきます

